

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 (株)クロス・サービスグループホームだんだん

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

上野 睦子

評価完了日

平成 19年 9月 30日

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3870101379		
法人名	株式会社クロス・サービス		
事業所名	グループホームだんだん		
所在地	松山市朝生田町7丁目13番28号 (電話) 089-931-7702		
管理者	上野 睦子		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市三番町六丁目5 - 1 9 扶桑ビル2階		
訪問調査日	平成19年10月24日	評価確定日	平成19年12月2日

【情報提供票より】 (平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要			
開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.0人
(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			
(3) 利用者の概要 (平成19年9月1日現在)			
利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	0 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.4 歳	最低 68 歳	最高 98 歳
(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり (なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 (あり)・なし	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>利用者と会話する折にも事業所の理念を話題にされ、個々の思いの把握に努めておられる。</p> <p>食事は、利用者個々のご自分にとっての適量を取り分けられるよう配膳等も工夫をされていた。ご自分で作った料理の説明をされたり、他者の意見等を聴く等、利用者個々の力や得意なことを発揮できるよう支援されている。</p> <p>希望に沿って個別に外出されることもよくある。外出マップ(事業所周辺の地図)を作成し、使用できる施設、買い物できる店、アイスクリームを食べに行く店等、利用者と相談しながら行ける場所を増やし、利用者の方が外出マップに色を塗っておられる。</p>

【質向上への取組状況】

<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・前回の評価結果を受け、改善計画を作成し「地域との交流」「利用者やご家族と話し合いながら介護計画を作成する」こと等、成果を確認しながら取り組まれた。</p>
<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>・職員全員で自己評価に取り組み、スタッフ会ですり合わせをされた。</p>
<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>・事業所の活動報告や利用者の普段の様子を伝えたり、利用者ご本人も出席し発言をされている。出席いただいた方達に事業所のことをさらに知っていただき、意見を出してもらえよう働きかけておられる。</p>
<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>・年に1回、ご家族の希望や要望をお聞きするアンケートを実施されている。その後、家族会を開催し、外出の希望、食事の希望、介護への要望等、ご家族と話し合われている。</p>
<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>・回覧板等からも情報を得られ、地域行事に積極的に参加されている。地区運動会では、利用者も地域の人達とともに玉入れを楽しまれた。公民館で行われている婦人会の教室にも参加をされており、顔見知りになった方と会えることを楽しみにされている利用者もおられる。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<p>(自己評価)</p> <p>運営方針を基に、平成19年3月、ミーティングにてチーム全員で話し合い自分たちの言葉で、理念を再構築した。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者、職員、地域の人達が繋がり、お互いに支え合うことを目指し理念が作られている。</p>		半年に1回はチームで理念の確認を行う。次回は12月予定。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>申し送り時やケアプラン見直し時、ミーティング時にスタッフ全体・個別に問いかけたり確認している。特に“ただいま・お帰り”という挨拶は全員が意識している。また、ご利用者の目に着く所に掲示しており、話題に取り上げたり、想いを聞いたりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者は、理念についてミーティングや勉強会時、又、日々ケアを行なう中で職員に話し、共有されている。又、利用者とは会話する折にも事業所の理念を話題にされ、個々の思いの把握に努めておられる。</p>		理念を各スタッフがどのようにとらえているのかを勉強会等ですり合わせ、行動指針などに具体的に表示し確認していく。
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議や、外部の方の見学や実習、入所時には、必ず理念の説明を行っている。</p>		家族会でも議題にあげ、ホーム内の取り組みとして報告、反応を見ていく。またご家族の来所時にも声をかけていく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 出勤時やご利用者との散歩時には、近隣の人たちとあいさつを交わしたり、共に座って会話している。近所の子供たちが「おじいちゃんは？」と訪ねてくることもある。		近所の方の名前と顔を知らない新人スタッフが入った時に伝えるように新人研修マニュアルに取り入れておく。道で出会った人には挨拶するよう心がけていく。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) だんだん便りを公民館に置かせていただいたり、地域行事（盆踊り、運動会、婦人会の教室等）にも参加している。ご利用者も知り合いに会えたりと楽しみにしている場面がみられる。 (外部評価) 回覧板等からも情報を得られ、地域行事に積極的に参加されている。地区運動会では、利用者も地域の人達とともに玉入れを楽しまれた。公民館で行われている婦人会の教室にも参加をされており、顔見知りになった方と会えることを楽しみにされている利用者もおられる。		今は、地域行事に参加させてもらっているが、事業所として地域活動のお手伝いができるよう関係をつくっていく。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 近隣に配っているかわら版にホームで行っているケアの工夫や認知症について紹介をしている。また地区の独居老人見守り隊の方に認知症についての相談を受けたりしている。		まずは、近隣の方たちと関係を作っていく。挨拶をかわしたり、運営推進会議でアピールしたりと事業所から発信していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 運営者や管理者はリーダー会や研修に参加し理解を深める努力をしている。また、スタッフに合わせて評価の意味を説明している。各スタッフはガイドブックを読み、評価の意味を理解した上で、スタッフ全員で評価のすり合わせを行った。 (外部評価) 職員全員で自己評価に取り組み、スタッフ会ですり合わせをされた。前回の評価結果を受け、改善計画を作成し「地域との交流」「利用者やご家族と話し合いながら介護計画を作成する」こと等、成果を確認しながら取り組まれた。		各スタッフは、自己評価し全員ですり合わせをして終わっているところがある。スタッフ全員で課題をあげ改善計画への参加を促す。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)		
			2カ月に1回開催している。2カ月ごとのホームでの活動報告を報告したり、外部評価を活用しサービスの現状やケアの課題を具体的に伝えている。また、会議の内容を記録に残して全スタッフが目を通し会議の内容を知るようにしている。		会議に参加できるスタッフが限られているので、順番に参加できるように体制をつくる。
			(外部評価)		
			事業所の活動報告や利用者の普段の様子を伝えたり、利用者ご本人も出席し発言をされている。出席いただいた方達に事業所のことをさらに知っていただき、意見を出してもらえらるよう働きかけておられる。		会議に出席されている地域の小学校の教頭先生から、小学校の生徒と事業所のお年寄りとの交流を提案されている。今後も、会議を活かして事業所の取り組みを広げていかれることが期待される。
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価)		
			市の研修に協力したり、参加している。公の実習にも協力している。また、地域包括支援センターに、ご利用者の成年後見制度の利用などで相談し関係づくりをおこなっている。		スタッフには、理解が難しい時がある。各事業所の役割も見えにくい様子なので、リーダーより伝えたり勉強会などに取り上げていく。
			(外部評価)		
			市職員の研修を受け入れておられる。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)		
			管理者は、外部の勉強会などに参加している。スタッフには以前、内部の勉強会で取り上げたが理解するまでには至っていない。ご家族等には、ご利用者の状況にあわせて、相談するようにしている。		各スタッフ個々で勉強することも必要としつつ、内部の勉強会で取り上げ学んでいく。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価)		
			内部の勉強会で取り上げ、虐待について学び全員で考える機会をつくった。また、現場ではリーダーからスタッフの対応(声掛け、言葉遣いなど)について、気になる時には声をかけている。(今のきつく聞こえるよ等)		日々の支援の中で“はっ”と気づけるよう、スタッフ同士で声を掛け合い確認していく。また、年に1回は、内部の勉強会で学ぶ機会をもつ。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご利用者の自宅へ伺ったり、ホームを見学してもらったりと徐々に関係づくりを行っている。契約時には、重要事項を説明しながら、わからないこと等問いかけている。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) スタッフは、日々の過ごし方や不満、苦情をご利用者に問いかけるようにし、苦情マニュアルに基づき、運営に活かせるようにしている。また、スタッフ以外の外部の方（近所の方、ご家族、看護婦等）が来所したときは、ご利用者と一対一で話ができるよう機会をつくっている。		いろいろな外部の方とご利用者が接する場面をつくっていく。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 一か月に一回は管理者より、ご利用者の状態などを手紙にてご家族へ報告している。（手紙の内容もご家族に合わせて変えている。）また、適時に電話で報告、連絡、相談をし、来所時にはおこづかい帳やケアプラン、日々の過ごし方などを報告したり相談している。遠隔地にいるご家族とFAXでやりとりしている。		ご家族の知りたい情報を提供できるよう声をかけていく。また、各スタッフとも話ができる等ご家族から意見の言いやすい工夫を行う。
			(外部評価) ご家族の来訪時や家族会の開催時等にも、事業所の取り組みや利用者の様子を報告されている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年2回家族会をホームから声をかけて開催している。その際年1回は家族アンケートをおこなっている。また、苦情マニュアルを作成している。		家族アンケートの郵送先を検討する。（直接ホームが受け取らないように）なんでも言ってもらえるような雰囲気づくりや来所の少ないご家族にホームからのアプローチを続けていく。
			(外部評価) 年に1回、ご家族の希望や要望をお聞きするアンケートを実施されている。その後、家族会を開催し、外出の希望、食事の希望、介護への要望等、ご家族と話し合われている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティング時に問いかけたり、確認したりしている。勤務体制などについても月1回はスタッフと個別に面談を行うようにしており、その際に問いかけている。ご利用者のケアに関することは日々の申し送り時に確認している。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者が勤務をカバーするかたちで調整に努めている。受診や外出、行事、ご利用者の状態にあわせて勤務体制を変動させている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動は基本的にはなく、顔なじみのスタッフがご利用者に関わるようにしている。異動時も少ない人数(1名)に限られている。また、離職を抑えるために月1回は管理者と面談を行ったり、月間目標を個別にあげ達成度を確認している。		
			(外部評価) 管理者は、職員個々と面談する機会を作り、それぞれの課題を解決できるよう取り組まれている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部の研修にはスタッフが順番で参加できるよう勤務体制を調整している。その際、報告を必ずミーティング時に行い、スタッフ全体で共有できるようにしている。内部ではスタッフの状態に合わせて研修を行っている。(新人研修、ケア向上委員、交換研修、リーダー研修など)また、ホーム内でも勉強会を行っている。		スタッフにより学びたいことが違う。ホーム内の勉強会を工夫しスタッフの意見を反映させ、計画をたてて進めていく。
			(外部評価) 事業所内の勉強会では、テーマを決め職員で知識を深めておられる。又、職員個々に月間目標を立て、管理者と面談を行いながら、個々で達成できるよう取り組まれている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			市の開催する勉強会や研修に参加している。相互評価事業にも参加しているが同事業所以外との交流は限られている。同事業所内では運動会や夏祭りなど合同で行う機会がある。		まずは、同事業所での行ききを普段から増やしていく。
			(外部評価)		
			市主催の研修や勉強会に、管理者、職員が出席され、地域の他の事業所の人たちと共に学んでおられる。		系列事業所の行き来を増やし、利用者同士が交流できるような機会をさらに増やしていきたいと考えておられた。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)		
			各スタッフの悩み等を共有できるようミーティングや勉強会、日々の申し送り時などに意見を述べ合うようにしている。また、同事業所との交流もあり、気分転換ができるようになっている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		
			管理者がご本人の自宅に訪問したり、見学に来てもらったりとして、ご本人、相談者と会って話をきくようにしている。		ミーティングや申し送り時など、スタッフ全員に情報提供を行う。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 管理者が直接会って話を聞くようにしている。また、ご本人とは別に話を聞く機会を設けている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族、ご本人の話と状況をよく聞くようにしている。また、ホームが満所時でも相談を聞き他のホームや小規模多機能ホームを紹介するようにしている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入所前には自宅に管理者が訪問したり、見学に来ていただいたりとしながら、関係をつくるようにしている。またショート利用なども勧めている。		
			(外部評価) ご自宅から入居される方が多く、管理者が事前に訪問し関係を作っておられ、その方に合わせながら事業所の雰囲気や周りの人に馴染んでいただけるよう支援されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日々の過ごし方や食事づくりなど必ずご利用者と共を基本にしている。忙しくしているスタッフのサポートをしていただいたり、人生の先輩として、年中行事や神事、スタッフの悩み等意見をいただいたり、教えてもらっている。ご利用者、スタッフともに励みあったり、喜びあったりする場面がある。		感情の表出の少ない方に対して、もっと想いを知る為に、ご本人の微妙な表情の変化やサインなどに気づけるようスタッフ間で情報を共有していく。また、個々のご利用者が主役になれる場面づくりや引き出しを行う。
			(外部評価) 利用者の方は、職員がご自分の子供か孫のように接して下さっており、職員の様子等をうかがい、利用者の方から声をかけ、手助けをしてくれるようなこともある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人の病院受診などに同行していただいたり、介助の必要な方にはスタッフよりご家族に介助方法を伝え、飲水や食事、口腔マッサージなどしていただいている。また、個別にご家族と外出されたり、居室で過ごせるよう声かけしている。		まだまだホームからの一方的な声かけが多いように感じる。ご家族とご本人を交えての関係づくりから始めていく。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時にはご本人を交えて最近の様子を伝えたり、電話の際には、ご本人とご家族が話す場面をつくったりしている。		ホームにまかせきりのご家族もいる。来所いただける場面づくりや声かけを続けていく。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ここ2～3年に入所された方へは、自宅に戻る機会を設けたり、地域の公民館での教室の参加できるよう支援を続けている。また入所されて年数の長い方はここに来てからの顔なじみになった近所のかたと話をしたりしている。		入所されてからのご利用者同士の関係づくりや利用している地域の店での買い物など支援を続けていく。また、ご本人のこだわりやなじみを知り続けていく。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) スタッフはご利用者同士の関係の把握に努めており、必要に応じて間に入っている。また、ホーム全体でなにかする機会（誕生日会、お月見会、花見、ピクニックなど）を設け、ご利用者がお互いに話ができたり、共に準備を行ったりしながら関係づくりができるよう支援している。		基本的にはご利用者同士の個々のトラブルにはスタッフは見守るようにしているが、場合によっては個別に話を聞いてご利用者のストレスがたまらないよう配慮していく。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約の終了原因は逝去が多く、その後のつきあいをご家族も望んでいるのかわからず取り組めていない。ただ、転居されたご家族が話に来てくださったり、町で偶然出会った時には声をかけていただいている。		故人の一周忌の命日にはがきなど送ってみる。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			ご利用者の言葉や行動、ご家族などの聞き取りなどから把握に努めており、ご利用者の発した言葉に着目し、チームでご利用者の想いを検討し関わっている。いろいろな視点から考えるようにしている。		アセスメントシートの記入を工夫して、スタッフが持っている情報の収集、引き出しを行う。
			(外部評価)		
			アセスメント様式には、ご本人・ご家族・職員で色を変えて記入されており、わかりやすくなっていた。調査訪問時、新聞のチラシを見ながら「ピザが食べたい」と話しておられる方や「喫茶店に行きたいね」と話しておられる方もうかがえた。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			入所前、入居後もご本人やご家族などに聞き取りをおこなっている。また、来所いただけた時にはいろいろな方からこれまでの暮らしぶりなどを聞くようにしている。ご家族とアセスメントシートの活用をしている。		入所前もそうだが入所後何年もなるとスタッフの勤務年数や関係によって知っている情報に幅がある。日常的にスタッフ間で共有できるようにする。
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			入所前の生活を基本に継続できるよう努めている。認知症になる前の生活を聞くこともある。また、朝・夕の申し送り時に支援内容や過ごし方などチームで検討している。		ご本人にとっての暮らし方を日々スタッフ全員で考え、伝え、実践し、よりご利用者にあった暮らしを探っていく。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			ご利用者の状況にあわせて、カンファレンスを行っている。また、朝・夕の申し送り時やミーティング時にセンター方式などを利用し各スタッフの意見や気づき、アイデアを伝えあっている。		カンファレンスを細かく記録に残せていない。情報を整理し、より、介護計画に反映できるよう工夫する。また、スタッフはつい、正誤や自分の価値観で判断してしまうので勉強会などでその視点を取り上げていく。
			(外部評価)		
			「つぶやきノート」に日々の利用者の会話を記録し、ご家族の来訪時に意見を聞き、介護計画を作成されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			ご利用者の退院時や状態の変化(周辺症状の悪化、体調不良、入所後、家族の要望が変わった時など)にあわせて見直しを行っている。また、見直し月にはご家族やご本人と共に目標の達成を確認している。		情報の漏れがないように、センター方式や記録にのこしていく。
			(外部評価)		
			3ヵ月ごとの見直しと状態の変化に応じて随時見直しを行っておられる。病院から退院した方については、1ヵ月後に必ず見直しを行い、新たな計画を作成されている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			ウィークリープランや申し送り帳の気づきに一日一日のプラン評価を書くようにしている。また、一か月ごとに経過記録を書くようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			個別の通院や外出を支援したり、地域の公民館に働きかけて、女性学級の参加をしている。また、ホーム隣にある小規模多機能ホームとも交流している。月に一回はご家族と自宅へ帰るかたもおられ、ご利用者、ご家族の要望に柔軟に対応できるようにしている。		今後も、ご利用者やご家族の要望にあわせて、できる限りの支援をチームで考えていく。
			(外部評価)		
			利用者一人ひとりの状態や要望に合わせて買い物や懐かしい場所を訪ねる等、柔軟に支援されている。		さらに、ご本人の要望とご家族の希望等を踏まえ、ご本人の思いに寄り添いながら柔軟に支援していただけるよう、取組みたいと考えておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		(自己評価) 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームが主体となっているところはあるが、ボランティア(サンシン、お話)の受け入れや公民館の行事などに参加している。また、防災訓練では、ご利用者、スタッフと共に消防の方の講義を聞くようにしている。		
41		(自己評価) 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所してしまうと、ホームでの生活支援が主になっているが、ご利用者の状況にあわせて、成年後見制度や生活保護制度などは他の事業所に相談している。また、希望にあわせて、同事業所のデイサービスの利用もできる。		
42		(自己評価) 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご利用者に関わる場面では、取り組みできていないが、運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加して、意見などいただいている。その際に、地域の情報や動向なども教えてもらっている。		今後も、運営推進会議を通して関係づくり、交流につなげていく。
43	18	(自己評価) かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している (外部評価)	入所時にご本人、ご家族等に相談し、かかりつけ医を決めている。協力医は、月2回往診があり、年2回健康診断を行っている。 入居時に主治医について相談し、ご本人やご家族が希望される病院を受診できるよう支援されている。		かかりつけ医の相談が入所時のみになっている。入所後にも、ご本人、ご家族に相談する。 事業所では、入居後もかかりつけ医について、相談する機会を作っていきたいと考えておられた。
44		(自己評価) 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医として、心療内科の医師に相談はできる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームの隣に同事業所の訪問看護ステーションがあり、なにかあればすぐに対応してくれている。また、相談にも乗ってくれている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) ご利用者が入院した時には、病院の地域連携室などに出向き声をかけ、病院や医師との調整を依頼している。また、週一回は、管理者、スタッフが訪問し様子を聞いたり、ご家族へ声をかけている。		入院時の訪問記録を残せていない。連絡ノートのようなものを活用しご家族などと連携をはかったり、記録を残しご利用者の状態をチームで知るようにする。
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した時の対応方針を文面化しており、ご利用者の入所時には管理者より説明し、同意をいただいたり、話し合っている。ご家族には、ケアプランの相談時に終末について相談したり、意見を聞くようにしている。		各スタッフが、重度化した時の対応やホームの方針について普段から話し合い、意見をすり合わせていく。
			(外部評価) 訪問看護や医師とも連携し、支援されている。		さらに、ご家族とも話し合いを繰り返し、取り組んでいきたいと考えておられた。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ここ2年ほど、重度化や終末期を迎えるご利用者はいないが、日々の中で、ご利用者の状態の変化にはチームで情報を共有し、ご家族に相談したり、ケア自体を見直している。終末を看とった事例もある。		ご本人やご家族の意向をしっかりと把握し、ご本人の気持ちを大切にチーム（スタッフ、ご家族、医師、看護婦、ご利用者など）で協力していく。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ご家族や住み替え先の方と話し合い、情報交換に努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) 記録物は持ち出しを禁止し事務所などに保管している。外部の方が記録などを見る時は、スタッフが同席し事前にご家族にも同意を得るようにしている。声掛けや対応については、内部の勉強会などで取り上げスタッフ全員で考えている。(ロールプレイングや理念づくり、虐待防止法の勉強など)</p>		<p>排泄や移乗、入浴、個別に合わせた支援など、さりげなく目立たずに行う。(声のかけ方、声の大きさなど)</p>
			(外部評価)		
<p>研修の受け入れ等、外部者が書類を見るような際にはご本人、ご家族に了解を得ておられる。記録類は、利用者の名前はイニシャルで表しておられた。</p>					
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) 日々の過ごし方や行事の内容や参加、食事のメニューやおやつなど細かいこともなるべく複数の選択肢をつくり、ご利用者に選べるよう配慮したり、ご利用者に相談し決めることを大切にしている。</p>		<p>ご自分では希望や感情を表出されない方への促しや働きかけを検討する。</p>
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) バイタル測定時(毎朝9時ごろ)や飲茶時、昼食後などに日々の過ごし方をご利用者に問いかけている。ご利用者の気持ちや要望を大切に個別性のある支援を行うようにしている。</p>		<p>働きかけも大切であり、ご利用者の要望をくみとりつつ提案していく。また、マンネリにすぎず方もおられるので、日々の状態をみすぎず、適時に働きかけを行っていく。</p>
			(外部評価)		
<p>買い物等の外出、食べたいものの希望、午後からの過ごし方等、職員は利用者が選んだり決めたりすることができるよう会話の中でさりげなく聞いておられた。昼食後、散歩される方、夕食の準備をされる方、居室で休まれる方等、思い思いに過ごされていた。</p>					

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 整容はなるべく自分でしてもらい、必要な時や必要な方に支援するようにしている。ご利用者によっては、外出時に洋服を着替えたり、かばんを選んだりしている。		ご利用者によっては、おしゃれのこだわりが違うので、まずはこだわりを知っていく。また、トイレ後や入浴後、上着からシャツが出ていたり、ズボンが下がっていたりするので、日常的に細やかに支援する。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者の体調や気分によるが、食事の準備やもりつけ、下ごしらえや調理などできる所は、共に行うようにしている。ご利用者それぞれが、得意料理をもっており、ホームの味になっている。食後の片づけもご利用者同士が声を掛け合い、役割分担を決めて行っている様子。スタッフはなるべく見守るようにしている。 (外部評価) 食事は、利用者個々がご自分にとっての適量を取り分けられるよう配膳等も工夫をされていた。ご自分で作った料理の説明をされたり、他者の意見等を聴く等、利用者個々の力や得意なことを発揮できるよう支援されている。		ご利用者任せになっていたりと、一緒に食事を取らず片付けに集中しているスタッフもいるので、共にすることの大切さを伝えていく。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ご本人のご希望やご家族からの聞き取りなどから相談して支援している。ご利用者によっては、ご自分で買い物時に購入されている方もいる。お酒を希望されている方で、主治医よりお酒を止められている方も雰囲気だけでも徳利にスポーツ飲料を入れて支援するようにしている。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表をつけながら、尿漏れしている時間や排泄リズムを個々に把握し、チームで工夫できないか申し送り時に確認している。また、ご利用者の状況(体調不良、外出など)にあわせて、布パンツやパット、紙パンツと使い分けるようにしている。		排泄のタイミングが合わない時もある。ソワソワしていたり、立ったり座ったりなどのサインに気づいていけるようスタッフ間で情報を共有する。また、ご自分からオムツの使用を希望される方もおられ、ご本人にとって気持ちよく安心できるような排泄を相談していく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ご利用者から希望を聞きながらしている。早朝や夜間に入浴できるよう支援している。また、入浴時間やお湯の温度、お湯の量などご利用者の好みに合わせて支援している。		スタッフにより促すタイミングが違ったり、ご自分で希望を伝えられない方もおられる。ご家族などに聞き取りつつ、心地よい入浴を支援していく。(入浴剤の使用、ゆず湯、菖蒲湯など)
			(外部評価) 利用者個々の入浴の習慣等にも配慮しながら支援されており、季節に応じてゆず湯や菖蒲湯等も楽しませている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) ご利用者の状態に応じながら、日中の活動を促し、外出や日光浴等支援している。また、お一人お一人の体調や表情、希望を考慮して休める場所をつくっている。室温の調整も行っている。		転倒防止のため、フロアで休まれている方への照明や雑音、他のご利用者の気配など気にならないよう、場所を変えたり工夫していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 朝の申し送り時にケアプランを基に一日の過ごし方をスタッフ間で確認し、場面作りや支援を行うようにしている。また、夕の申し送り時にはその日の場面作りや支援がご利用者にとってどうだったのかチームで確認して明日のケアの参考にするようにしている。		生活歴のなかで、昔得意だったことが、今したいこととは限らず、スタッフの自己満足にならないようご利用者と共に行い、様子を見ていく。また、ご利用者によっては、頑張りすぎてしまう方もおられる。ストレスにならないよう気持ちに寄り添うようにしていく。
			(外部評価) 裁縫をされ、事業所で使用する雑巾を縫われている。雑誌を買って読まれる方が芸能界の情報をよく話してください。時には、カップを変えて喫茶店の雰囲気でお茶を楽しまれることもある。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 各ご利用者の状況、ご家族等のご希望にあわせて、支援している。買い物時にはなるべく、自分たちの財布から支払いができるよう支援している。		個人差があることだが、今後ご利用者のご希望やできる力を見極めながらご家族にも説明し理解していただけるよう働きかけていく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			季節にもよるが、外出はほぼ毎日働きかけている。外出先や参加の可否、内容もお一人お一人に問いかけ相談するようにしている。ホーム独自の外出マップを作成し、ご利用者のご希望を聞きだすのに使用している。		スタッフの思いだけで、無理やり誘っているところもあるのではないか。行きたくなるような提案の仕方や場面作り、外出の目的など、今後も試行錯誤しながら取り組んでいく。
			(外部評価)		
			希望に沿って個別に外出されることもよくある。外出マップ(事業所周辺の地図)を作成し、使用できる施設、買い物できる店、アイスクリームを食べに行く店等、利用者と相談しながら行ける場所を増やし、利用者の方が外出マップに色を塗っておられる。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			ご利用者の誕生日などにあわせて、行きたいところへ行けるよう計画したり、ご自宅へ帰る支援をしている。日常的には難しいところもあるが、個人で行きたい所へ外出できる機会を作っていけるよう取り組んでいる。		ご利用者のご希望を聞き出せていない方もいる。ご家族に説明しながら協力を得て、聞きとりや実現させていく。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			年賀状は毎年ご本人から、ご家族や大切な方に書いていただけるよう支援している。電話はご利用者の希望時のみになっているが、ご家族からホームへ電話があった時はご本人と変わったり、機会(荷物や手紙が届いたとき、記念日など)があればご利用者に電話を働きかけている。		ご利用者のご希望にあわせて、手紙を送る機会をふやしてみてもは。また、電話したくても思い出せなかったり、言い出しにくいところがあるのではないか。ご利用者の状況にあわせて、アドレス帳を共に作成してみてもは。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			ホームへの訪問時間は定めず、いつでも訪問できるようにしている。訪問時には、居室を利用したり、ご利用者との間に入り声をかけたりしている。		ご家族の訪問はあるが、限られた方であることも多い。ご家族にも声をかけご利用者のなじみある方が訪問できるよう関係を作っていく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ホーム内の勉強会で取り上げスタッフ全員で話し合ったり、理解を深めている。身体拘束だけではなく、言葉での制限や誘導にもスタッフ同士で声を掛け合ったり確認するようにしている。		年に1回はホーム内での勉強会で取り上げ話し合いの場所を持つようにする。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関にチャイムがあるが、日中(5時~21時)は鍵をかけていない。夜間(21時~5時)は防犯のため鍵をかけているが、ご利用者によってはご自分で鍵をあけることもできる。居室内にも鍵をかけることはない。 (外部評価) 外に出る機会を積極的に作り、鍵を掛けず自由に過ごせる生活を実践されている。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) ご利用者の状況に応じて、見守ったり、声をかけたり、誘導したりしている。二階へは、ご利用者やご家族のご希望にあわせて、居室の巡回を行っている。また、フロアからご利用者が出られる時には、スタッフ間で確認するようにしている。		スタッフが一人になる時のご利用者の把握、安全への配慮に不安がある。ご家族と相談したり、物音にすぐに確認するようスタッフ間で工夫していく。
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 洗剤はご利用者の目につきにくい所に保管し、薬は事務所の鍵付きの金庫の中に保管している。刃物類はスタッフが必ず見守り使用している。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリ・ハットを活用し、スタッフ間で情報や改善を共有し未然に防ぐようにしている。事故などが発生した場合は必ず報告書を作成したり、場合によっては、緊急にミーティングを開いたりし今後の事故防止に努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年1回は、消防署から救命救急の研修を受けれるようにしており、研修を受けたスタッフが、ホーム内の研修時にスタッフ全員に伝えるようにしている。また、夜間時の連絡方法や緊急時の対応マニュアルなどを作成し電話のそばに掲示している。		いざという時に、不備なく対応できるよう日頃から意識し、訓練の機会を多く持てるようにする。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) ホームでは、年2回ご利用者と共に避難訓練（火災訓練1回、地震訓練1回）を消防署立会のもと行っている。地域の方へは、運営推進会議にて協力を呼び掛けている。 (外部評価) アニュアルをスタッフルームに掲示し、いつでも確認できるようにされている。2階の居室の方の避難方法について消防署の方に教わった。		ご利用者と共に防犯グッズの確認や実際に避難場所へ行ってみるなど、日常的に災害に対しての取り組みを行う。避難訓練も年2回では少ないので、回数をふやすなど工夫していく。 地域の消防団や近所の方達の協力を依頼されている。さらに、災害時の訓練とともに地域と事業所が助け合えるような体制作りについても期待される。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入所時や見学時に2階の居室でのリスクや夜間時の対応、日々を過ごす中でのリスクを説明し、理解をもとめている。また、ご利用者の状態が変化し、リスクが予想される時は、その都度ご家族に相談し意見をきいている。		スタッフへの申し送りがタイムリーにできていない。特に、ご家族の意向に関しては、記録に残すなどして、チームで共有していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 発熱やいつもと違うなど、早めに主治医やご家族、看護婦に報告し、対応を考えておくようにしている。また、朝食後には、コミュニケーションを目的としバイタルを測定し、会話をもちながら顔色や、手足の冷え、むくみ、いつもと違うところがないか、確認している。		報告のタイミングや方法がスタッフによりばらつきがある。もう一度スタッフ全員で確認を行う。また、スタッフが安心できるまでバイタルを測るところもあるので、バイタルに頼るのではなく、ご利用者の状態も加味してチームで判断していく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 新人研修の中で、ご利用者が今使用している薬について、カルテをもとに把握する時間をつくっている。また、新しい薬や変更がある際には処方箋と共に申し送りを行っている。		ご利用者お一人お一人の使用している薬についての理解を深めるためにも、年に1回は薬についての勉強会を行う。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 日々の申し送り時にその日の排泄を確認している。食事に食物繊維や雑穀をとりいれたり、おやつにおいもをだしたり、腹部マッサージや温めなど自然に排泄できるよう工夫している。		運動量の少ない方に対して、散歩や運動を働きかける。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) ご利用者の状況にあわせて、支援している。特に、飲み込みのしにくい方へは、食前に口腔マッサージをしたり、日常的に肩や胸の運動や温めを促している。		食後の歯磨きにご利用者のタイミングが合わない時がある。状況に応じて柔軟に歯磨きを促す。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量は個別にチェックしている。食事量に関しては、必要な方や変化のあるかたはチェックし、共に申し送り時に確認している。食事量の少ない方へは、捕食等を進めるようにしている。		飲み込みがしにくくなってきている方もいるので、今の状態を維持していくためにも声をだしたり、口腔マッサージを促す。また、個々に合わせての食事の形態や食べるタイミングなどご利用者の状況に合わせて工夫する。
			(外部評価) 食事の摂取カロリーについて職員で勉強会をされている。コップ1杯が約何ccであるかということ把握し、必要な水分を確保できるよう支援されている。夜間にも水分補給できるよう配慮をされている。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 月末に、夜勤のスタッフが、感染症チェック表をつけて、改善案を提示、チームで見直すようにしている。また、その際、感染症マニュアルの見直しも行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>冷蔵庫の掃除は、月に1回を基本としつつ、その都度汚れを拭くようにしている。食材は、賞味期限を守り使っている。また、毎日の夜間時に布巾や三角コーナー、まな板など消毒行っている。</p>		<p>食材は、一度にたくさん発注せず、使いきれの量を考え発注を行う。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関口は開放しており、出入りのしやすいようにしている。玄関先には、ベンチを置きご利用者が涼んだり、日向ぼっこをしたり、通る人に声をかけたりしている。</p>		<p>玄関先の花の植え替えや犬の糞、ごみ箱のにおいなど各スタッフが気がついたその時に改善するようにする。</p>
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>季節ごとに壁の飾りを変えたり、玄関に花を置いたりとしている。ご利用者がスタッフに聞かなくてもすぐ手の届く所に馴染みの物品や興味をひくものをおくようにしている。日中は見えないテレビは消し、ラジオやBJMなどを流している。フロア近くに台所があり、食事のにおいや音など生活を感じられるようにしている。その時期の食材を話題にして、会話をもつきっかけにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>椅子がところどころに置かれており、ソファ、畳の間等、ご本人の希望や状態等に合わせて心地よく過ごすことができるよう工夫されている。縁側で菜園を眺めながらひなたぼっこされる方もおられる。又、玄関や居間に季節を感じる装飾もされていた。</p>		<p>壁の貼りものが多くなっている。貼るだけにならないようご利用者と相談しながら共に環境づくりを楽しんでいく。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>フロアの座るイスやソファなどご自分の居場所が決まっている様子がみられる。場面によっては、一人で過ごせたり、数人で過ごしたりしている。食後には畳で横になったりもできる。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			(外部評価)	入所時に個々が使い慣れた馴染みのものを持ち込めるようご本人、ご家族等と相談したり、アドバイスしたりしている。居室でゴロリと横になりリラックスされていたり、「居室はいい。」というご利用者の声がある。	
			白寿のお祝いの色紙・写真を飾っている方、ご家族からのプレゼントのお花をドライフラワーにして飾っておられる方、仏壇を持参されている方、ご家族の写真を飾られる方等の居室がうかがえた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			(外部評価)	日中はフロア内の窓を開けたり、扇風機を使用し換気に努めている。温度調整は温度計で確認しながら、ご利用者の肌に直接触って確認するようにしている。ご利用者によっては衣服で調節されている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			(外部評価)	いろんな場所に椅子を置くようにしており、どこでも手がつけられたり、腰を下ろせるようにしている。ローカや階段などに手すりがあり、ご利用者は使用している。	
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			(外部評価)	ご利用者お一人お一人に合わせ、居室に今日の予定をボードで伝えたり、月の行事を張り出したりしている。テーブルの傷や鏡が気になる方がいる。	
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			(外部評価)	玄関先の駐車じょうでは、気候がいい時期にテーブルを出して食事したり、ティータイムをしたりしている。	

. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	ご自分で言える方に関しては、スタッフ間で朝・夕に申し送り情報を共有する事はできているが、スタッフによってはご利用者の思いをつかみきれていない場面もある。センター方式を利用したり、カンファレンスなどで各スタッフが気づいている部分の引き出しができればもう少しご利用者の思いをくみ取っていただけるのではないかと思います。ご自分では言葉にできない方に関しても、カードや筆談、行動や表情をみる等ご利用者の思いをくみ取れるよう工夫していく。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ②	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	スタッフによって感じ方の差はあるが、時間帯によってや食後、ティータイム、外出時に一対一でゆったりとすごしたり、みんなで話す場面もある。居室で荷物整理や掃除をともしながら過ごすこともある。その時々のご利用者の状態によって左右されることもあり、一日バタバタと過ぎていく日もある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ②	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ご利用者自身がフロアと居室を自由に往復している。また日々の過ごし方や外出などをご利用者に相談している。食事の時間もご利用者によってはずらしたり、タイミングを計って支援している。ただ外出や買い物はスタッフの都合で行きたい時に支援できなかったり、食事や入浴の時間などもご利用者がスタッフに合わせている場面もある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	場面によってやご利用者の得意分野、役割のなかでみられることもある(家事、茶話会、昔話、歌、梅漬け、行事、会での挨拶、裁縫など)が、スタッフによって受け止め方が違う時もある。まずはスタッフがご利用者の生き生きとした表情を知っていくことが大切なのではないか。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフの都合で支援できていない時もある。本当に行きたい所はどこなのか、誰と行きたいのか、なぜ行きたいのか等普段のご利用者の外出の様子などから探っていく。また、ご家族へも働きかけ問いかけていきたい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ②	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々のチェック表(バイタル・排泄・睡眠など)で申し送り時に出勤スタッフで確認を行い、漏れのないように努めている。必要時には病院に受診したりご家族に相談して対応をきめている。ただ、痛み時や服薬(眠薬や胃薬、正露丸など)の希望時にはすぐに対応できなかったり、薬の要望に応じられなかったりすることもある。また、階段の昇降が不安な方もいるのでは。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ご利用者の要望(外出、買い物、洗濯物、頓服薬など)にすぐに対応できない時があり不安になっている場面もあるのではないかと。また、スタッフ間で情報の共有ができていない時もあるのでは。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ③	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ホームから一方的なところが多く、ご家族にホームから依頼したり、伝えるだけになっている。管理者とご家族が接する場面は多いが、他のスタッフとは挨拶程度に終わっている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	馴染みの方や地域の方は、用事がないと来てくれないのが現状だが、隣にある小規模多機能ホームと普段よりご利用者同士の交流があり、近所の子供も時折訪ねてくることもある。また、ボランティアのサンシン演奏は、ご利用者の楽しみになっている。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (自己評価) ② ② ③ ④	近所の方が、散歩時や地域行事の時などにご利用者に声をかけてもらったり、行事に参加しやすいよう配慮してくれたりしている。また、会議の参加者と顔なじみになっている、ご利用者もいっしょに、声をかけてもらったり、たわいなし話をする関係になっている。
98	職員は、生き生きと働いている (自己評価) ③ ④ ⑤	迷ったり悩んでいたたり、疲れからかぐったりしているスタッフもいるが、ご利用者と関わることで笑ったり前向きな気持ちになっているのでは。スタッフは、ご利用者と明るく笑顔で関わるよう心がけている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ③ ④ ⑤	不満を聞くことも多いが、「ホームに帰りたい。」と入院時に言ってくれたり「ここにきて、よかった。」との言葉を聞くこともある。ご利用者が、がまんしたり、諦めているところもあると思うが『出会ってよかった。』とっていただけるようスタッフは努力し関わっていく。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ③ ④ ⑤	要望を言ったださるご家族は限られている。口にはされないが不満に思っている部分もあると思う。ご家族によっては、安心されているところもあるのでは。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

“ご利用者と共に”を大切に一日一日の過ごし方や行事、家事などスタッフ主導にならないよう、必ずご利用者に意見を聞いたり、相談したりしながらご利用者と生活を作り上げていくようにしている。

地域との関わりを大切にしており、特に外出支援には力を入れて取り組んでいる。個別に一日外出できる機会をつくったり、個々が希望する外出先に行けるよう個別に支援したり、バスや電車などの公共機関を利用し外出したり、地域の方とのふれあい(地域行事、公民館での女性学級、地域小学校での運動会への見学など)の中でホームには味わえないことや、スタッフでは提供できない時間をご利用者が過ごせるよう取り組んでいる。

朝・夕の申し送りの時間を出勤スタッフ全員が参加できるよう工夫し、ご利用者の様子やケアの気づき、反省を振り返り明日のケアにつなげている。

スタッフは、センター方式を活用し、よりご利用者をしろうとしたり、各スタッフが自分の月間目標をあげ課題にとりくんでいる。常にご利用者に關心をもち、前向きにご利用者と関わろうとする姿がある。